

新生児集中治療室（NICU）における家族面会の全国調査

キーワード 新生児 NICU 祖父母面会 同胞面会

E棟 4階(NICU) ○新澤杏奈 北出有果 伊東聖子

I. はじめに

既存研究ではNICUにおける家族面会について、①いつでも会える、②誰でも会える、③家族が主役の3つを提言されている¹⁾。A病院の新生児集中治療部(以下NICU)は2016年新病棟へ移転した。新病棟では施設構造上、旧病棟で実施していた、窓越し面会が不可能になった。そのため、2017年より愛着促進の目的で祖父母面会、同胞面会を実施することになった。現在NICUでは両親は13時半から20時半の間であれば時間制限なく面会できるが、祖父母・同胞面会については出生後2週間が経過し、主治医の許可があれば、週1回の予約制で14時から15時の間で15分という時間制限を設けて実施している。そのため、A病院NICUの家族面会は上記の提言とかけ離れていた。

そこで、A病院での家族面会のあり方を検討することを目的として全国の総合周産期母子医療センター108施設の家族面会の実態を調査した。

II. 研究目的

A病院NICUの家族面会のあり方を検討するために、全国の総合周産期母子医療センターを対象に実態調査を行う。

III. 研究方法

- 1. 研究デザイン：量的記述的研究デザイン(実態調査研究)
- 2. 研究対象：全国の総合周産期母子医療センターのNICU108施設

- 3. 調査期間：2018年11月～2018年12月31日
- 4. データ収集方法：全国の総合周産期母子医療センターへ郵送文書で研究への参加、協力の依頼をし、インターネット上アンケート(Google Form)での回答にて回収した。調査内容は、施設概要と家族面会に関する内容とした。
- 5. データ分析方法：単純集計
- 6. 倫理的配慮：奈良県立医科大学医の倫理審査委員会の承認及び学長許可を得て実施した。(研究番号：2023)

IV. 結果

回答数11(10.2%)、有効回答11(100%)

1. 対象施設の概要

NICUの届出病床数は平均値18.2(SD:12.8)床であった。新生児回復治療室(以下GCU)の届出病床数は平均値24.2(SD:10.6)床であった。平成29年度の年間総入院数は平均値370.4(SD:210.7)人であった(図1)。看護師の数については平均値70.5(SD:35.3)人であった(表1)。

表 1 届出病床数と年間総入院数

届出病床数	NICU	GCU	年間総入院数	NICU・GCU
10床以下	4	0	100～200人	3
11～20床	3	6	201～300人	2
21～30床	3	3	301～500人	4
31床以上	1	2	501人以上	2

2. 両親面会

両親の24時間面会については63.6%の施設で実施している。実施していない施設に面会時間延長を検討しているか尋ねたところ半分の施設が検討していると回答があった。24時間面会を開始するために困難なことについては「面会対応にかかる看護師の負担増」「感染対策」「病院に入るときのセキュリティ」「処置中の面会」「開室当時より24時間面会のため不明」との回答があった(図1)。実施して良かったことについては「面会頻度の増加」「育児参加の増加」「愛着促進」「退院後の育児の自信」「母乳育児推進」との回答があった(図2)。そして、24時間面会を実施して発生したインシデントについては、どの施設も発生なしという結果であった。また、例外で時間外に入室出来る施設は83.3%であった。例外としては「急変時」「終末期」「長期入院時」であった。

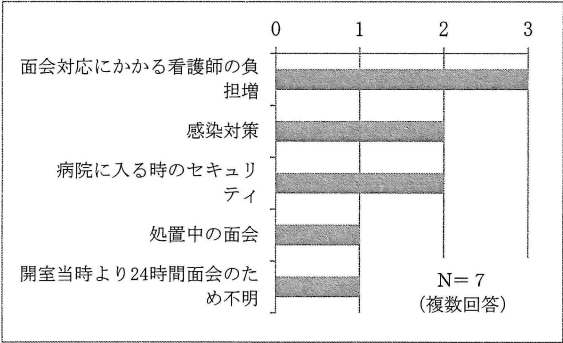


図 1 24時間面会を開始するために困難なことは何でしたか？

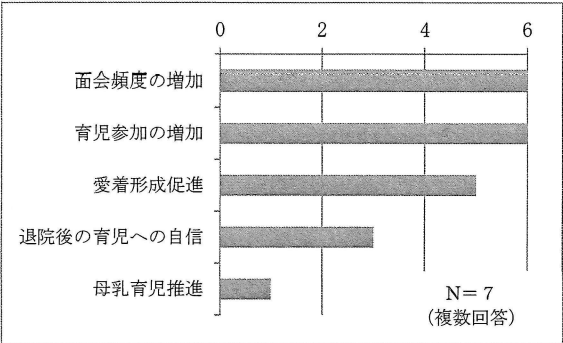


図 2 24時間面会を実施して良かったことは何ですか？

3. 祖父母・同胞面会

祖父母面会を実施している施設は90.9%、同胞面会を実施している施設は63.6%であった。その内24時間面会を実施している施設は祖父母では20%、同胞は全ての施設で実施していないという結果であった。24時間面会を実施していない施設に面会時間延長を検討しているか尋ねたところ祖父母12.5%が検討しており、同胞では全ての施設で検討していないと回答があった。実施して良かったことについては「面会頻度の増加」「育児参加の増加」「愛着促進」「退院後の育児の自信」との回答があった。そして、24時間面会を実施して発生したインシデントについては、どの施設も発生なしという結果であった。実施にあたり障害になっていることについては「感染対策」「必要性を感じられない」との回答あった(図3)。また、例外で全ての施設が時間外に入室出来るという回答であった。例外としては「終末期」「急変時」「長期入院時」「退院後にサポートが必要な場合」「シングルマザー」との回答があった。祖父母・同胞面会を実施していない施設で窓越し面会を実施している施設は祖父母80%、同胞87.5%であった。

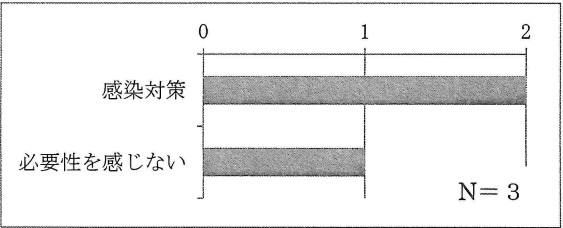


図 3 祖父母の24時間面会を実施するにあたって障害になっていることは何ですか？

V. 考察

1. 両親面会

今回の調査では、24時間面会実施している施設は、63.6%であり、24時間面会に変更しようとしている施設も50%であった。先行研究にて24時間面会実施することで育児参加や相互行動場面が増え、愛着形成を促し、退院後の育児の助けになる²⁾とい

われている。今回の結果でも「面会頻度の増加」「育児参加の増加」など児の成長・発達に影響する効果を実感していた。一方で実施にあたり障害になっていることについては「処置中の面会」「感染対策」「他病棟との面会時間の相違」が挙げられており、問題点を明確化して対策していくことで 24 時間面会に繋がっていくのではないかと考えられる。

2. 祖父母・同胞面会

先行研究で、「NICU 入院児の両親にとって、精神的支えとなる祖父母の役割は大きい」³⁾と述べられており、同胞面会では「入院児のきょうだいの精神的成長は家族形成に繋がる」⁴⁾と明らかになっている。2005 年に祖父母面会について行われた実態調査では実施している施設は 29.3%⁵⁾、2010 年に同胞面会について行われた実態調査では実施している施設は 22.1%であった⁶⁾。それらと比べると祖父母・同胞面会に対する意識が変わってきていると言える。しかし、時間制限を設けている施設が多く、24 時間面会を検討している施設は少ない結果となった。そのことから 24 時間面会を実施しなくても、規定の時間内での祖父母・同胞としての役割は果たしており管理面から考えると、24 時間面会実施にいたらないのではないかと考えられる。そのため、NICU の環境を整え、感染対策を徹底し看護師が 24 時間面会の必要性や祖父母・同胞面会の効果を実感することで、祖父母・同胞面会の時間拡大に繋がっていくのではないかと考えられる。

VI. 結論

この調査は回答数 11 (10.2%) と少なく、今回の結果のみでは全国の面会状態の把握には繋がらなかった。しかし、全ての家族面会で実施している施設が多くなったことから家族面会の推進が行われていることがわかった。そして、時間を拡大することでの効果や面会者数の増加による問題が顕在化してないことが明らかになったため、この調査結果を基盤

として、面会拡大に向けその具体化を進めていくことが次の課題である。

VII. 引用文献

- 1) 鈴木真波他：家族面会への提言－NICU での家族面会をどうするか－、日本未熟児新生児学会雑誌，20 (1) : p. 143－145，2008
- 2) Klaus, M, H and Kennell, J, H, :Parent－T－nfantBonding, 1982, 竹内徹他訳，親とこのきずな，医学書院，p. 221－325，1985
- 3) 園山里美，金家静，横木礼子：NICU における祖父母の面会を全例に導入した現状とその意義，島根県栗中央病院医学雑誌，Vol. 27，p. 39－40，2003
- 4) 桶口圭美，石原昌美，田口恵美子他：NICU における祖父母、きょうだい面会の分析，山梨県立中央病院年報，36，p. 25－27，2010
- 5) 松原久美子，折小野直美，杉山美加：全国の NICU，GCU における祖父母の入室面会の実態調査，日本新生児看護学会講演集，15 回，p. 214－215，2005
- 6) 山口広子他：NICU におけるきょうだい面会についての全国調査－管理的側面からみた現状報告－日本新生児看護学会学術集会，21，p. 74－74，2011